

事務事業名	就労者定住促進奨学金返還支援事業				担当	教育委員会 学校教育課 総務係		
政策名	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～			☒ 総重（総合計画重点事業） ☒ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 総新（総合計画新規事業） ☐ 戦新（総合戦略新規事業）		
施策名	5	雇用の安定と創業支援の推進						
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 毎年度実施（開始年度 平成28 年度～） ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠	真岡市就労者定住促進奨学金返還支援事業補助金交付要綱							
予算科目	1.一般会計	10.教育費	1教育総務費	2事務局費				
予算科目								
予算科目								
事業概要	人口増加及び定住促進施策の一環として、無利子の奨学金を受けて大学、短期大学、高等専門学校及び大学院に進学した者が、卒業後に真岡市内に居住し、就労した場合、返還された奨学金の一部を補助することで、真岡市への定住を促進させる。 【補助金額】 前年度中に返還した奨学金（補助対象金額）に相当する額 ※ただし、一人に対する補助金の総額は最大200万円を限度とする。 ・令和元年度末、市内就労要件を外し対象者を拡充するため、要綱を改正をした。 ・令和3年4月から、対象者を拡充するため、4年生以上の大学生に加え、短期大学生、高等専門学校生、大学院生を追加した。これに伴い、貸与期間は2年以上とし、返還期間を5年以上に改正した。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）					④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
5年度実績 市ホームページ、ウィークリーニュースもおか、広報もおかへの掲載、郡内各高等学校、その他県内・近県各高等学校や真岡工業団地総合管理協会へ案内を配布し、制度の周知及び募集を行った。 6年度計画 前年度と同様					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
					ア 交付者	人	18	34	44	52	58
					イ 交付金額	千円	3066	5339	7013	7946	10350
					ウ 周知回数	回	6	6	6	6	6
					エ						
					オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 公的な奨学金を借りている人（市奨学金を借りている人）					⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
					ア 市奨学金を借りている人	人	16	7	6	11	6
					イ						
					ウ						
					エ						
					オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 奨学金を貸与した学生に対し、真岡市内に定住する機運を高めることができる。					⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
					ア 制度を利用し定住した人	人	18	34	44	52	58
					イ						
					ウ						
					エ						
					オ						
(2) 総事業費の推移					単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0	0		
			一般財源	千円	3,908	5,339	7,013	7,946	10,350		
	事業費計（A）			千円	3,908	5,339	7,013	7,946	10,350		

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に記載された事業であり、定住させる目的は妥当である。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 卒業学生への定住促進に要する投資として妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 公的な奨学金を借りた人の定住促進が図られる。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある (評価理由) 必要な周知を行い、定住促進を進める。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☐ 削減余地がない ☒ 削減余地がある (評価理由) 利用者が年々増加しており、予算も増大している。新規利用者に定住に結びついているかアンケートを行い、費用対効果の検証を行っている。結果を基に事業の適正化について研究していく。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☒ 見直し（ ☐：目的妥当性 ☐：有効性 ☒：効率性） 補助金額の縮小 補助年数 奨学金種類による補助額設定 ☐ 統合 ☐ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td style="background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td style="background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> <td style="background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持																					
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 利用者が年々増加しており、予算も増大している。 新規利用者アンケートの結果を踏まえ、この事業が定住促進につながっているのかを検証し、事業の在り方を検討する。																						

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td style="background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td style="background: repeating-linear-gradient(-45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
					コスト																		
		削減	維持	増加																			
成果	向上	○																					
	維持																						
	低下																						
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 本事業が定住促進につながっているのか検証し、補助金交付額の妥当性を検証すること。																						
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																							